

日本の伝統文化 「能、狂言体験教室」

徳島文理大学「教員養成コンソーシアム四国」

10月1日(土)、「教員養成コンソーシアム四国」では、日本の伝統文化に対する理解を深めることを目的として、徳島文理大学徳島キャンパス「アカンサスホール」にて、「能、狂言体験教室」を開催しました。出演者は、和泉流狂言方の小笠原匡氏(能楽協会会員 日本能楽会会員)、和泉流狂言方の小笠原弘晃氏、観世流シテ方の高橋京子氏(NPO 法人徳島能楽振興会理事)の3名で、参加者は、小学生から大人まで幅広い層の多くの参加がありました。約2時間にわたる「能・狂言」の解説や体験をとおして本物に触れる機会が持て、日本の伝統的な芸術への理解を深めるよい機会になりました。



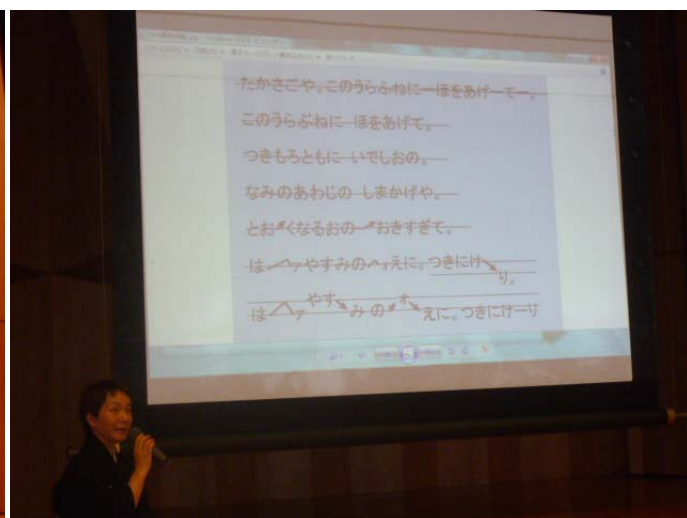
徳島キャンパス石井信子先生の開会の挨拶



観世流シテ方、高橋京子先生による「能」の解説



スライドを使って能舞台などの解説



全員で「高砂」を謡いました



「扇」の意味についての解説



舞



和泉流狂言方、小笠原匡先生による「能・狂言」の歴史や伝承などについての解説と参加者の体験



小学4年生の息子さん（弘晃くん）と、狂言「痺」（しびり）の演技



参加者から、能楽堂や流派、古典と新作についての質問がありました。

平成18年に改正された教育基本法では、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」とあります。また平成20年にだされた中央教育審議会答申「教育内容に関する主な改善事項」の中の「伝統や文化に関する教育の充実」では、「国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である。世界に貢献するものとして自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けてこそ <中略> 自己と対話しながら自分を深めていく上でも極めて重要である。」とあります。

平成23年度より施行の学習指導要領で示されたように、学校現場では、日本の伝統や文化の理解について、子どもの発達段階に応じて各教科などをとおして指導の充実が図られていくこととなります。将来教員をめざす学生は、日本の伝統文化の重要性を理解し大きな関心を持ってもらいたいと思います。